

令和6年度 第4回日進市男女平等推進審議会議事録

日 時 令和7年3月14日（金）午後4時～5時
 場 所 日進市役所 本庁舎4階 第2会議室及びオンライン
 出席委員 渋谷典子、可児康則、小倉祥子、山田環、加藤豊司、原田義弘、横井寿史、
 杉浦健太、松岡成子、中尾猛、風岡美紀（敬称略）
 欠席委員 塩満綾香（敬称略）
 事務局 小濱美紀（市民協働課長）、栗崎明子（同課課長補佐）、
 荒井有紀子（共生共同係主査）、松田涼輔（同係主事）
 傍聴の可否 可
 傍聴の有無 有（3名）

議事及び発言内容

発言者	内 容
	開会
事務局	市民協働課長あいさつ
事務局	審議会概要説明、資料確認
事務局	開会を宣す
会 長	次第に沿って進行
会 長	会長あいさつ
会 長	進行を任されたので、議事を進めていく。
	議題：日進市男女平等に関する市民意識調査報告書（案）について
事務局	（資料1、2に沿って説明）
会 長	意見のある委員はいないか。
委 員	3頁目について。結婚・家庭・地域生活について、男性の家事参加が増えてきているとの記載があり、確かにそうかもしれないが、10頁以下の意識調査では「いつも女性が担当している」という回答が女性に比べて男性の方が明らかに低い。女性側は「男性の家事参加」をあまり感じていないことが読み取れるのではないかな。離婚事件にかかわっていると、男性側は自分がやったと言うが、女性側からするとやっていないという食い違いがある。男性と女性の自己認識の違いについて3頁にも一言記載しても良いのではないかな。また、10頁以下の冒頭文で、その回答をした人の性別が書かれているが、読んでいけばわかるものの、わかりづらいのではないかな。
事務局	ご指摘のとおり、男女間で回答の意識差が読み取れる大事な部分であるため、記載や表現について検討する。
委 員	4頁目の就業についての記載について。「職場における男女差は以前に比べて少なくなっていることがうかがえます。」という総括は修正が必要ではないかな。31頁の具体的なデータを見ると、個別具体的な事項からは男女差を拾えなかったが、働いている人々は男女差を感じている、もしくは意識さ

	れるようになったということが言えるだろう。4 頁の総括は、この結果に即した内容に修正したほうがよいのでは。
事務局	事務局でも悩んだ箇所。なぜこのような結果になるのか、今回の調査だけでは読み解けない部分がある。ご指摘のとおり、個別事項では男女差があるという意識は減り、全体としては男女差を感じている人が増えたという現状を報告書に反映することを検討する。
会長	男女の賃金格差など、以前は違いがないと思っていたが、違いが見え始めたということもあるかもしれない。
委 員	「男女の平等感」で男性「優遇」という使い方には違和感がある。「優位」のほうが良いのではないか。また、「割」と「%」の両方が使用されているので、どちらかに統一したほうがよいのではないか。
事務局	「男性優遇」、「女性優遇」という言葉については、「〇〇の方が優遇されている」という聞き方をしているため、そう記載している。各グラフの下部に定義も記載している。また、大きな傾向を説明する際には「割」を、細かな数値の比較については「%」を使っている。
委 員	問 2 の賛成か反対かを聞いた項目で、「肯定的」「否定的」としてまとめている。先ほどの「優遇」の表現と同じように、設問に合わせた表現にするなら、検討したほうがよいのではないか。愛知県などの似た資料では、「賛成」「反対」といった表現でまとめている。
事務局	5 年前の調査と同じ表記としたが、他自治体の状況も確認しながら、より良い表現を検討していく。
委 員	語句の意味を理解しているかを聞く項目があったが、報告書を市民向けに公開するのであれば、それぞれの言葉の意味について併せて広報してはどうか。
事務局	報告書をホームページに掲載する際に、URL を貼るなど工夫する。報告書の最後に調査票を記載しており、そこに QR コードを貼り付けている。調査票の回答時に、市民が語句の意味を調べられる工夫をしている。
会長	市民にもじっくり読んでほしい。
委 員	見出しの 1 章の「調査の概要」が、市民調査の記載しかなく、こども調査の記載を入れなくてよいのか。
事務局	1 章の調査概要にこども調査の記載を追記するか、結果の概要を 1 章ではなく 2 章と 3 章それぞれに記載するのか、検討したい。
委 員	問 1 について、夫婦の働き方別の分析で、どちらが夫、妻なのかがわからないがよいのか。
事務局	まず時間（働き方）で分けており、組み合わせによってはサンプル数がかなり少なくなってしまうため、この記載となった。
委 員	アンケートに答えてくれた子どもたちに、この結果を発表、フィードバックすることは考えているのか。
事務局	現状では決まっているものはない。男女川柳の募集に合わせて募集している

	ので、同じルートでフィードバックもするか、検討する。
委 員	学校において、掲示板に貼り出すなどの対応はできるだろう。
委 員	この資料が、男女平等推進プランの中間見直しの基礎資料となると聞いている。この結果報告書を出すことが最終目的ではない。男女共同参画の視点からの防災対応については、すぐにでもこの結果を受けて施策に取り組んでもよいのではないか。
事務局	ご指摘のとおり、男女共同参画視点での防災対応は喫緊の課題だと捉えている。今年度についても、職員に対しては研修、市民に対しては避難所開設訓練説明会で男女共同参画担当職員がこの視点の必要性を説明するなど、取り組みを進めている施策もある。現行のプランに防災の施策はあるが、意識調査ではあまり聞いてこなかったため、今回新設で男女共同参画視点での防災について項目を追加した。
委 員	産後パパ育休制度について設問があったが、各企業の福利厚生で異性カップルと同じように育休などが取得できるケースがある。パートナー育休制度など、言葉をニュートラルにしても良いのでは。
事務局	産後パパ育休制度については国が使用している通称を記載している。今後、意識調査の結果を受けて計画を策定する際に、同性カップルで子育てをする人たちがいるという視点も踏まえて策定していきたい。
会長	他に意見はないか。
委 員	意見なし
会長	それでは、今後の進め方について事務局から提案はあるか。
委 員	章立てなど大きな部分もあるため、一度持ち帰って検討させていただく。修正したものを、皆様へ共有するが、最終判断については会長に一任いただけるか。
会長	事務局から提案があったが、最後は会長に一任いただく形でよろしいか。
委 員	了承
会長	次第の「その他」について事務局から報告を。
事務局	資料３に沿って説明。
会 長	全体を通して、他に意見はないか。
委 員	(意見なし)
会 長	それでは進行を事務局へお返しする。
事務局	議事進行ありがとうございました。委 員の皆様も貴重なご意見ご審議ありがとうございました。以上を持って令和６年度第４回男女平等推進審議会を終了する。次回の会議については７月頃を予定しており、あらためて日程調整を行う。